

ほ場をA Iで解析、適量の肥料散布



田植え「可変施肥」実演

関市でJ A全農岐阜など

全国農業協同組合連合会
県本部(J A全農岐阜)など、
人工衛星で撮影した
ほ場の画像を人工知能(A
I)で解析することにより、
イネの生育傾向に合わせた
量の肥料が散布できる「可
変施肥技術」の実演を関市

農作業の効率化を図る「スマート農業」の一環で行われた「可変施肥田植え」の実演。関市下有知

下有知のほ場で行った。

農作業の省力化と、生産性向上が期待できる方法について知ってもらおうと、J A全農岐阜、めぐみの農業協同組合(J Aめぐみの)、県などが共催。25㍓のほ場で、場所ごとに散布する肥料の量を決める「施肥マップ」を作成するソフト「ザルビオ」と、実際に散布する農業機械「スマート農機」を使って行われた。地域の農家や県職員ら約50人が参加。山藤和樹さん(32)は「場所によって肥料の量を自動で変えてくれるのは非常に画期的」と話した。(山岸達矢)